
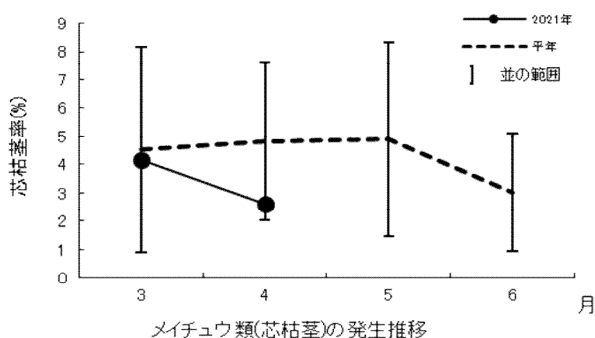


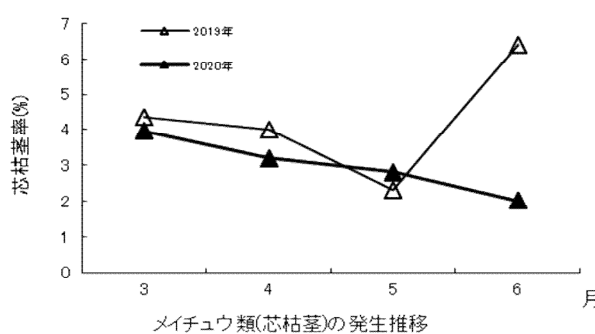
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

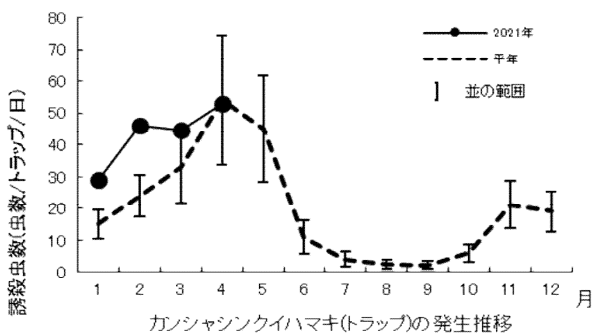
今期と平年の推移



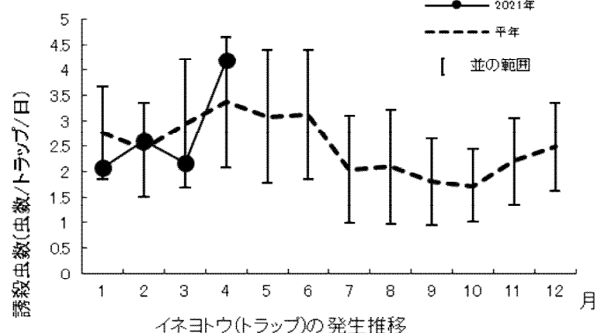
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率 : 90.0% (平年値 : 89.1%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、100% (12/12頭) がカンシャシクイハマキ、0%(0/12頭)がイネヨトウであった。

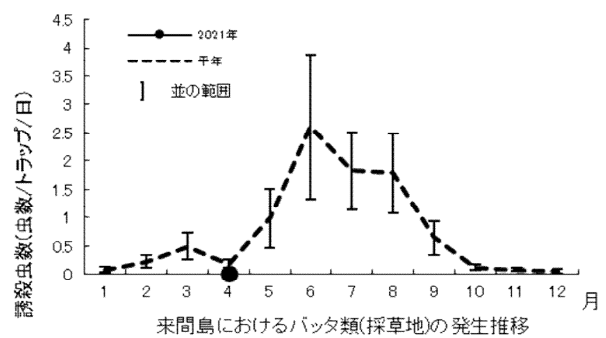
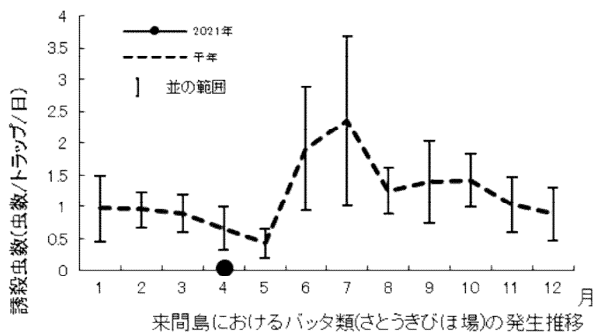
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

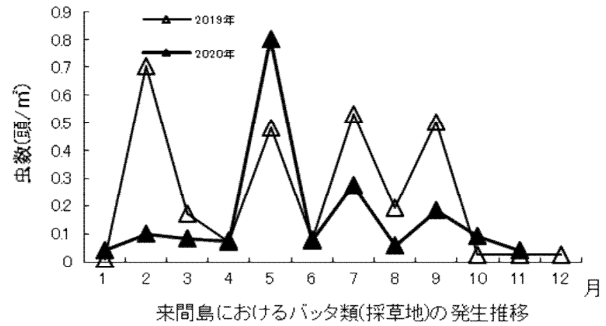
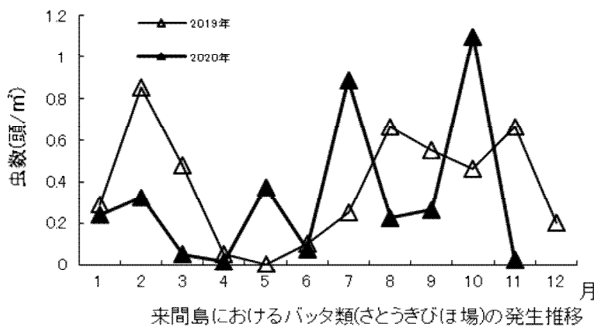
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)		
予報	4 月からの増減傾向 5 月の発生量 (平年比)		
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



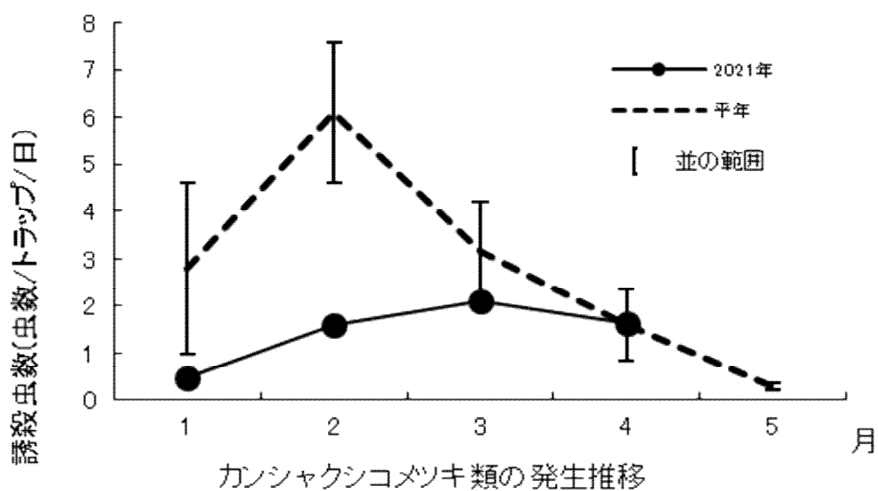
・発生種：タイワンツチイナゴ、チュウゴクヒゲナガイナゴ

防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、5～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	カンシャクシコメツキ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果




防除のポイント

- ・ 成虫は2月上旬～3月上旬頃から地上に出てくる。
- ・ 発生が多い地域では連作を避ける。
- ・ 植付前に植溝に粒剤を施用する。

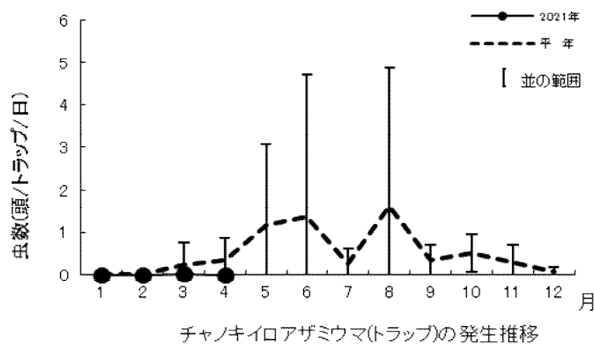
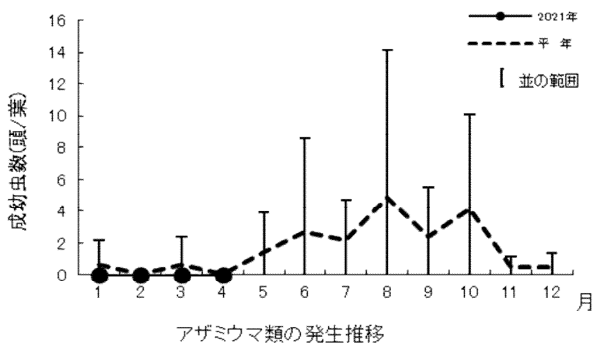


カンシャクシコメツキ類(成虫)

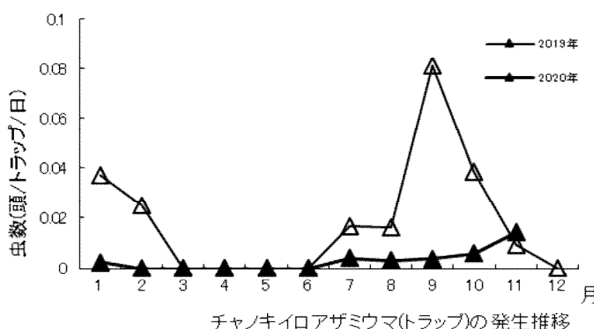
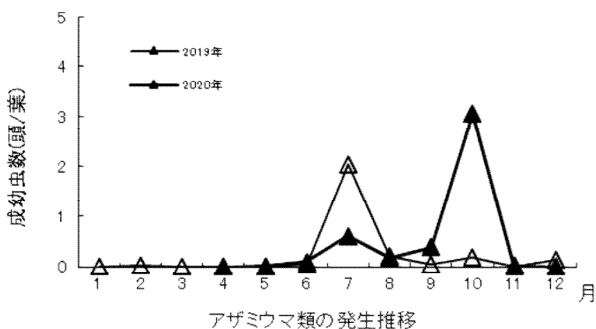
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠			

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移




・トラップにおける発生施設率：0%（平年値：12.8%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

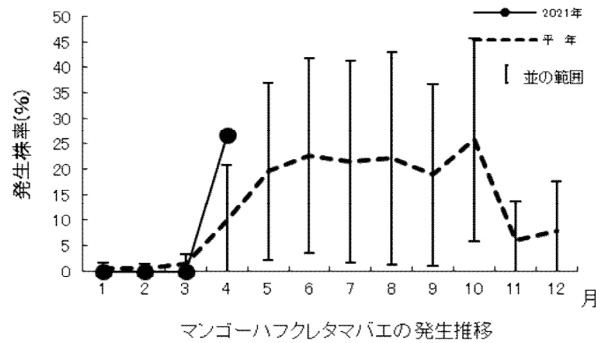


ナガエコミカンソウ

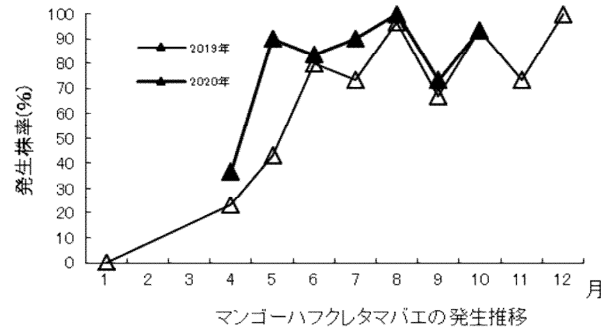
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・被害新梢率：16.7%
- ・発生施設率：60% (平年値：28.9%)

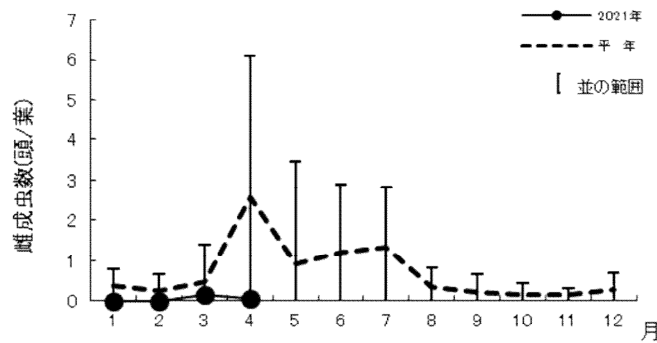
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は、ほ場外に除去する。

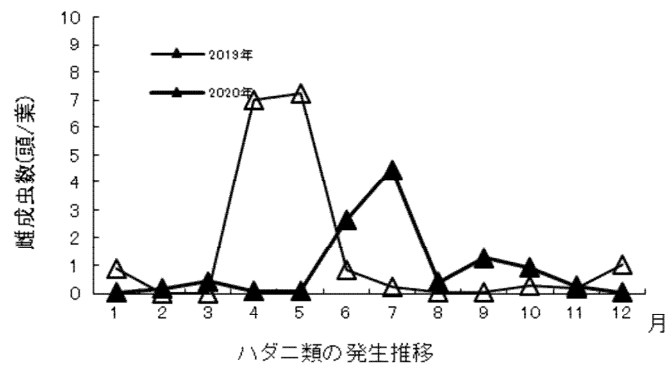
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生ほ場率：20.0% (平年値：52.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

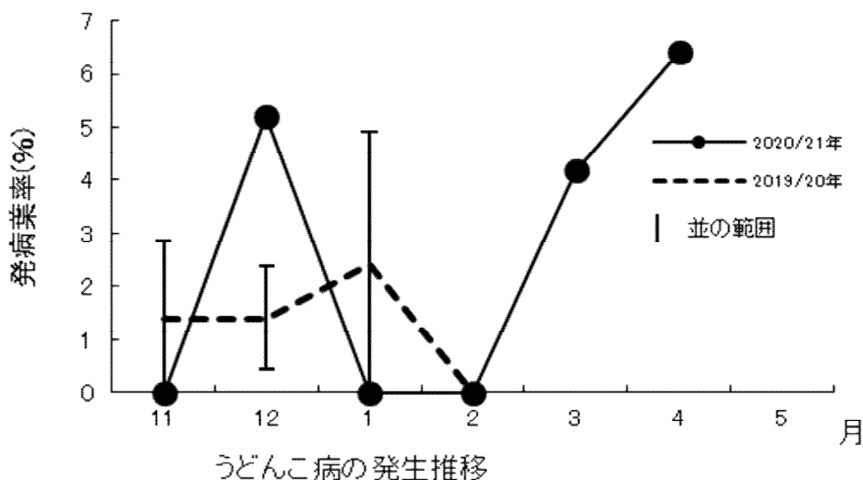


ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島	
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)			—
予報	4 月からの増減傾向			—
		5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠				

調査結果


今期と平年の推移



- ・発生ほ場率：80.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

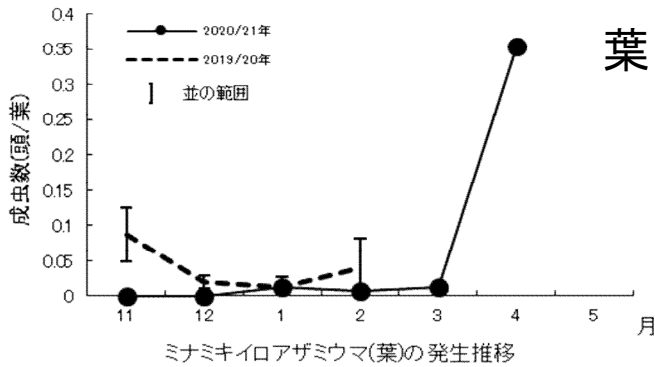
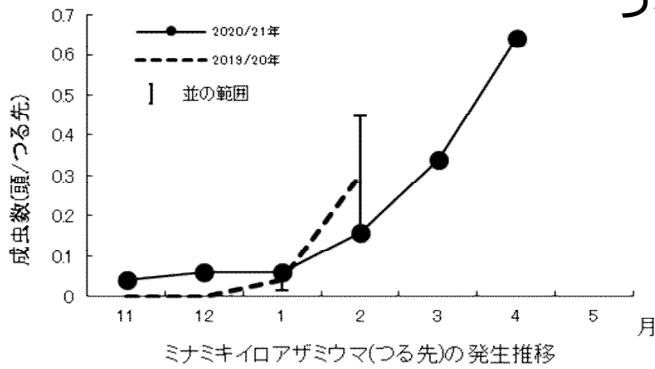
防除のポイント

- ・発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・薬剤防除は予防散布に重点をおく。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報	4 月からの増減傾向	—	
		5 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移



- ・発生ほ場率：80.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

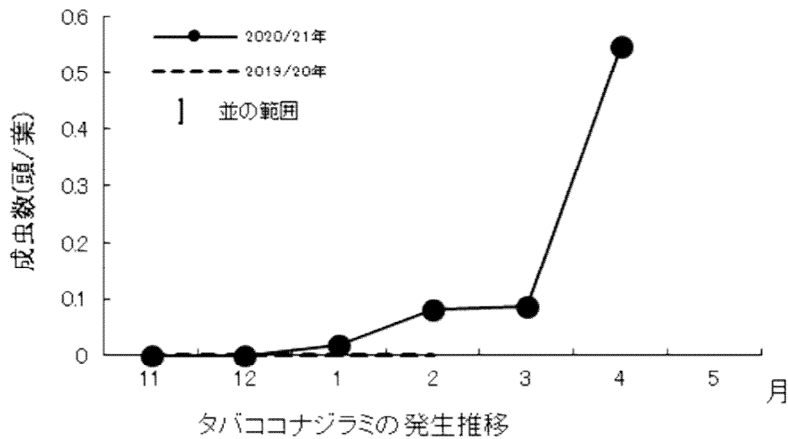
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移



- ・発生ほ場率：40.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

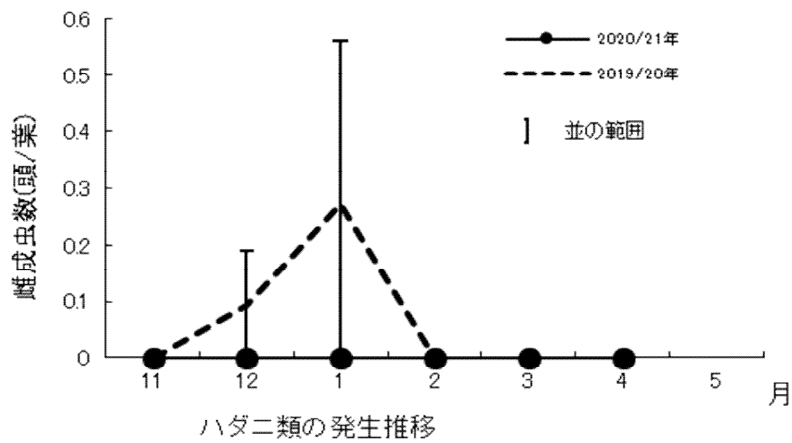
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	—		
予報	4 月からの増減傾向	—		
	5 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


発生数の推移



- ・発生ほ場率：0.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

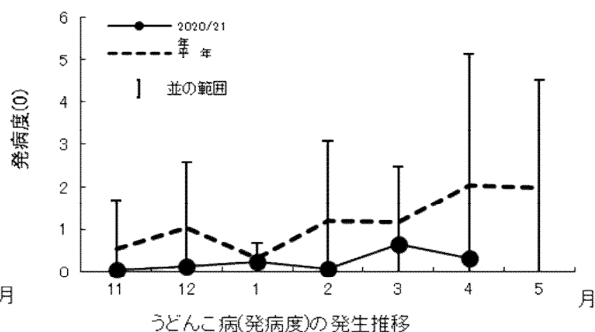
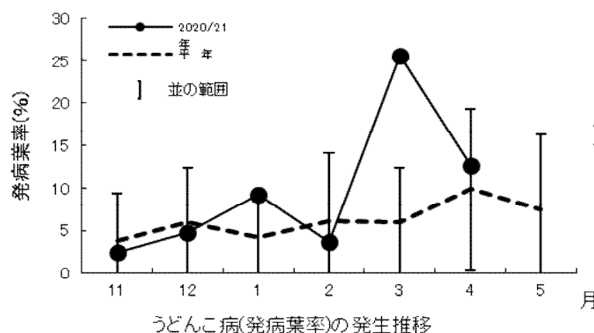
防除のポイント

- ・気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

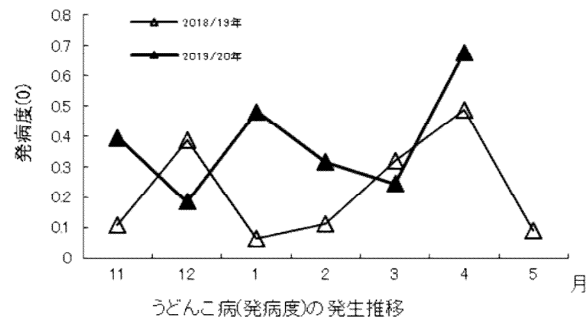
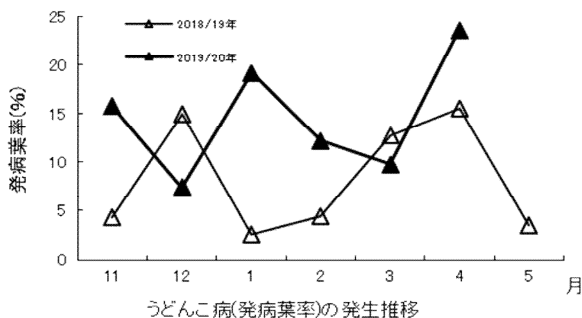
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年の推移



・発生ほ場率：60.0%（平年値：52.0%）

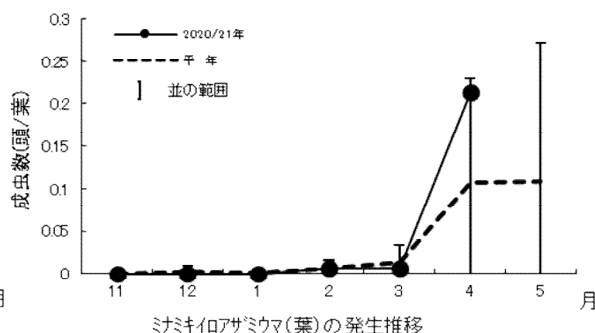
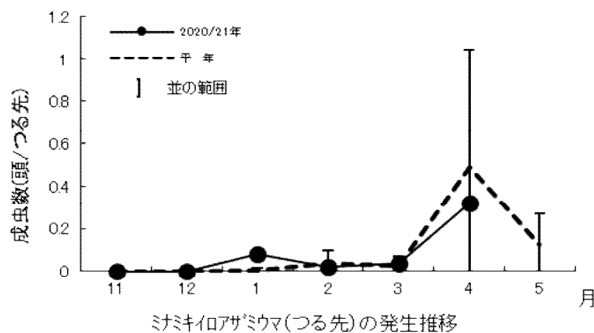
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

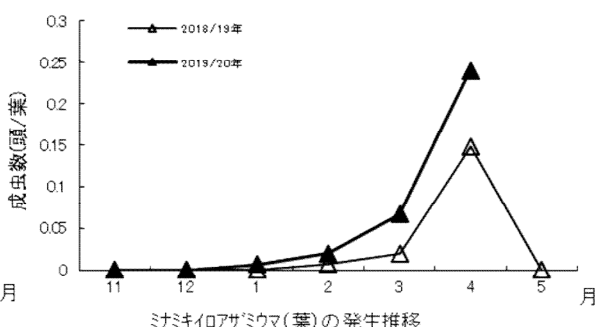
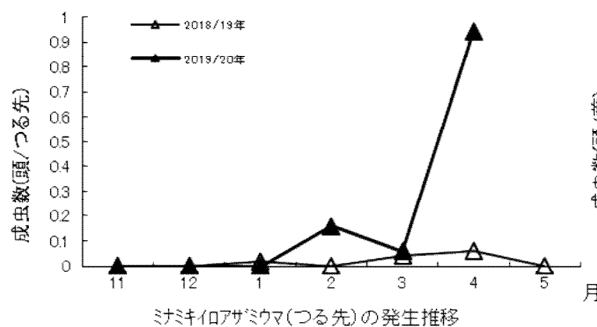
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移




・発生ほ場率：40.0% (平年値：48.0%)

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

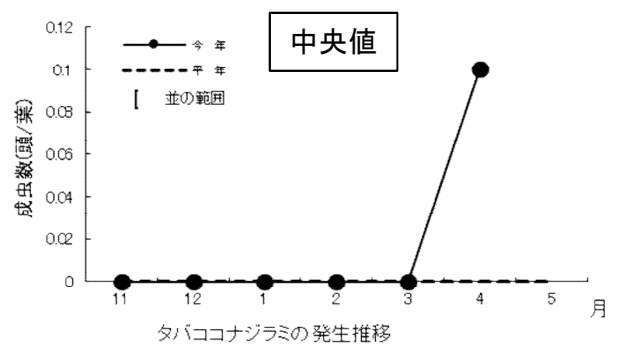
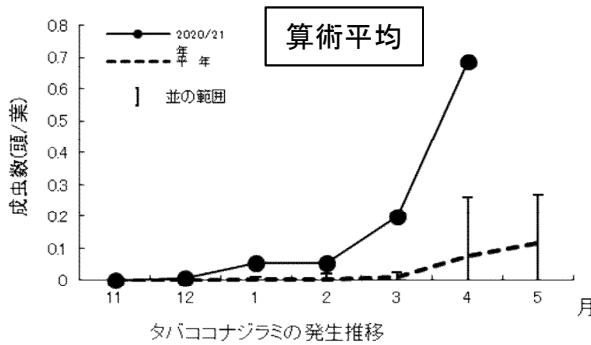


果実の被害

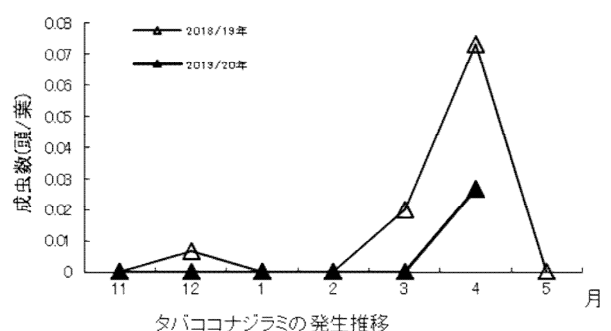
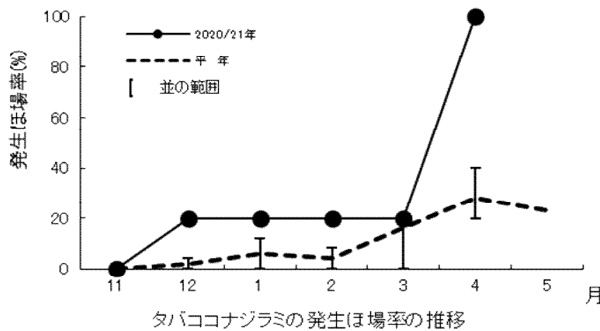
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




発生ほ場率の推移



・発生ほ場率：100.0% (平年値：28.0%)

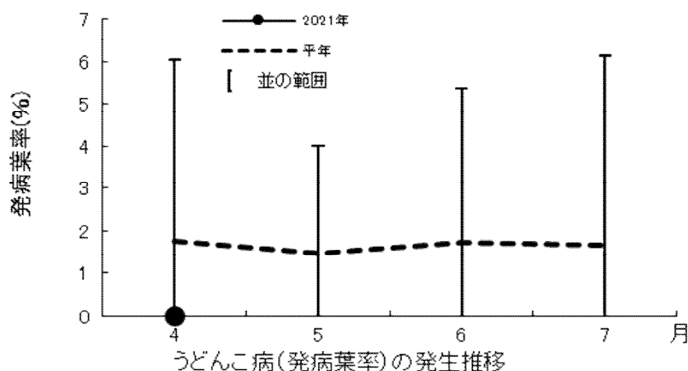
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

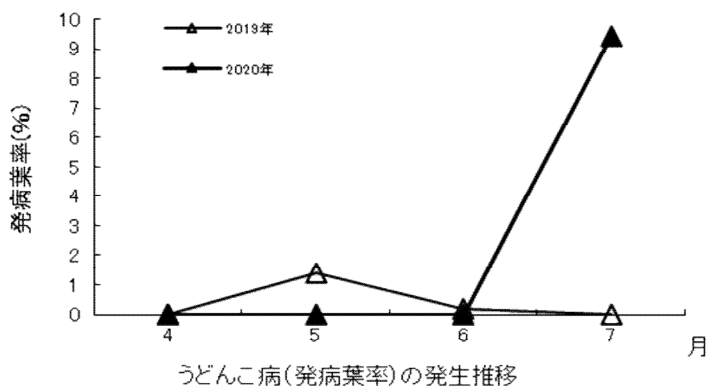
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 10.8%)

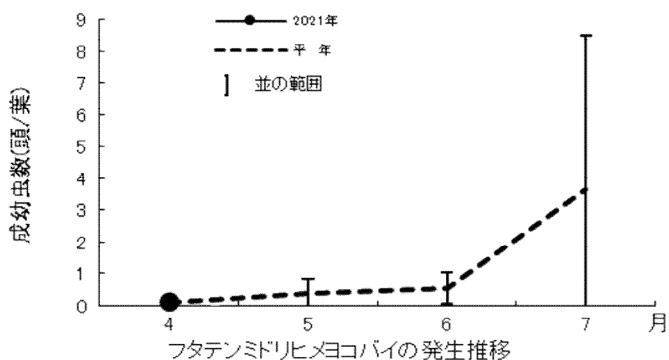
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

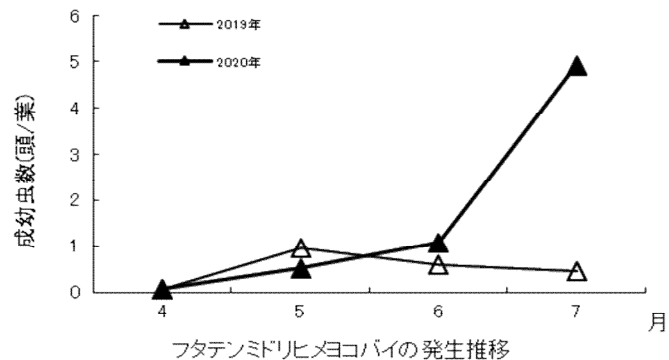
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 60.0% (平年値 : 48.6%)

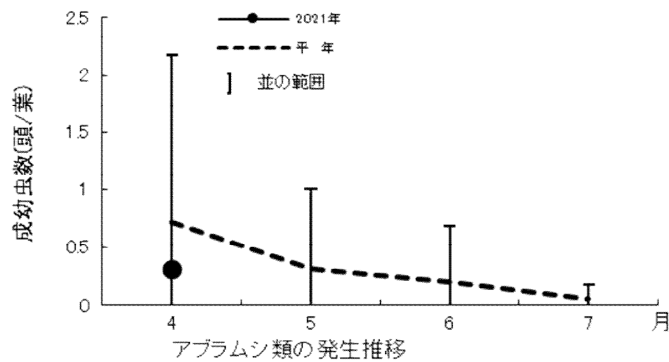
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

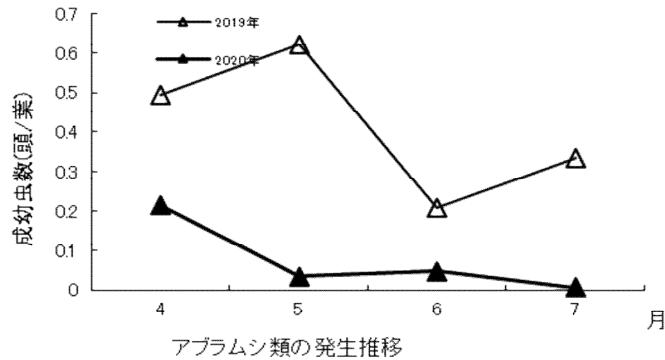
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：20% (平年値：45.9%)

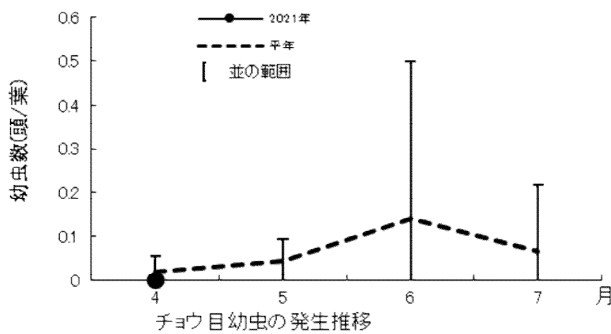
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

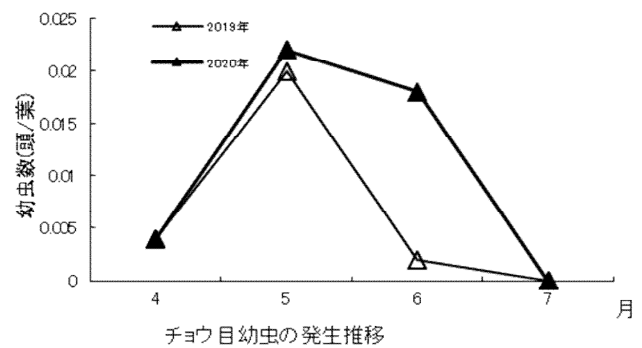
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 29.7%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

